

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700161		
法人名	社会福祉法人 栲の木福祉会		
事業所名	グループホーム しらふじ		
所在地	高知県四万十市右山1973-2		
自己評価作成日	平成28年 1月14日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、協力病院が隣接した見晴らしの良い高台に立地しており、急変時の対応等ができ、家族、入居者、職員の心の拠り所となっている。
 地域住民とは併設している白藤園の夕涼み会に屋台(出店)を出していただいたり、防災訓練などの行事でも交流が図れている。
 年に2回の保育園、小学校との交流会では児童と楽しく触れ合う機会がある。
 入居者の誕生日には無理のない範囲で家族様に声を掛け招待し、誕生日会の楽しいひと時を過ごしていただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&jizyosyoCd=3970700161-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地を望む小高い丘の上に立地し、同一建物内に協力医療機関と養護老人ホームが隣接する、1階に位置している。そのため、医療の緊急対応や行事面での協力を得やすい環境になっている。隣接の養護老人ホームとの共用ホールは、毎週火曜日に地域に開放しており、そこで行われる利用者にも可能な体操に参加して、住民と交流している。
 「地域の中で本人らしく生き生きと光り輝ける環境づくり」、「互いに信頼し合えるなごみの関係づくり」を理念とし、その具体的な実践のために、職員全員で考えて、利用者に対する「笑顔、尊重、依頼する言葉遣い」を職員の心得として作成している。職員の育成にも力を入れ、職歴の長い職員が新人職員と1対1で研修を行っており、職員間のコミュニケーションは良好に保たれている。職員は利用者の喜ぶ姿にやりがいを感じ、利用者は安心して日々の生活を送っている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置きケアに取り組んでいる。職員会やカンファレンスで理念を振り返り、改善点や具体的なケアについて管理者、職員共に意思統一を図りながら、日々実践している。	「地域の中で本人らしく生き生きと輝ける環境づくり」と「互いに信頼し合えるなじみの関係づくり」を理念とし、利用者への「笑顔、尊重、依頼する言葉遣い」を職員心得として掲げ、具体的な実践に取り組んでいる。ケアの悩み事があれば、理念や心得を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の養護老人ホームと合同の夕涼み会やバザーの際には、多くの地域の方の参加がある。又、小学校、保育所との交流会では子供達と触れ合う機会を設けている。防災訓練では地域の方との交流がある。	母体法人として町内会に加入しており、隣接施設との夕涼み会等の合同行事には40～50人程度の住民が参加している。週1回、隣接施設との共用ホールを地元に開放し、住民が行う体操の一部に利用者が参加し、交流を重ねている。また、年2回小学校等とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の参加がある事業所の行事では、入居者との交流を通じて認知症に関する理解を深めていただくようにしている。看護学生実習受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を行い、事業所からの報告とともに検討事項や懸案事項について話し合い、経過を報告し、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらいサービス向上に活かしている。	会議では、事業所の活動報告に沿って、事故やヒヤリハットへの改善意見等が出され、転倒や誤薬防止に提案を活かしている。また、防災や行事計画、外部評価等に伴う目標達成計画も報告し、協議している。しかし、地域代表の数が少なく、議事録は家族に送付しているが、協議後の取り組み経過の記載がない。	会議メンバーに民生委員や老人クラブ等、地域代表の数を増やすよう働きかけ、外部の意見を充実させるとともに、議事録には協議で出された改善意見等への取り組み経過も記載し、継続性を持たせることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の暮らしやニーズを具体的に伝え、連携を深め協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者には、主として運営推進会議で事業所の実情を伝え、助言をもらっている。日常的には、利用者の介護認定や入居に関する問い合わせ等を通じて、地域包括支援センターも含め協力し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族様の希望により、窓のロックを鍵付きのものにしている利用者もいるが、基本的に玄関等の施錠は行わず、一人ひとりのその日の気分や状態を気にかけて、声掛けする等し安全面に配慮しながら、暮らしを支えるようにしている。	職員は身体拘束や虐待に関する外部研修を順次受講し、職員会で報告して身体拘束の弊害への理解を共有している。事故の防止対策が身体拘束にならないよう、運営推進会議でも慎重に検討し、家族にはリスクへの理解を得るようにしている。玄関に施錠せず、利用者の思いを大事にして見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みと、虐待を見過ごさないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について大まかには理解しているが、支援出来る体制が万全とはいえない。今後は、成年後見制度の研修に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約の際には前もってある程度の時間を要することを伝え、十分に時間をかけて説明し、質問等があれば受けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会の後に家族会を開き、家族等が意見、要望を言える機会を設けている。また、面会時にも何でも言っていたりするような雰囲気づくりに努めている。	職員は毎日利用者の思いや意見を聞いて対応に努めており、家族には面会時に意見を聞くほか、年1回行事に合わせて家族会を開催している。家族会では家族同士の話し合いの場を設け、家族の意見には納得が得られるよう説明し、提案があれば可能な限り実現している。	家族の意向に沿って開催日を決めるなど、工夫により家族会への参加が増えているが、次のステップに向けて開催回数を増やす検討や、家族がより意見を出しやすい雰囲気づくり等への工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会、カンファレンスを行い職員にそれぞれの意見を聞き、職員間で話し合い、意見を反映させている。	月1回の職員会には、職員全員のほか施設長も参加するので、出された意見への結論や対応が早くできている。管理者は職員が意見を言いやすいよう進行に配慮し、排泄用品の管理や物品購入の提案等に対応している。申し送りノートも活用して職員の意見を汲み取り、共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度職員会を行い職員で意見を交換し、勤務時間や業務の見直しなどに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはマンツーマンで、ケアの技術面と利用者との関わり方について丁寧な指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や他施設への研修等、意見交換等で行い、サービスの質を向上させることを意識しながら取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に面接を行い、生活状況や思い等を聞き、そのことを大切にしながら事業所で安心して暮らしていけるよう、出来る限り本人に寄り添い、関わりを持ち本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めているものを理解し、どのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思い、状況等を理解し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、信頼関係を深め必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、多くの時間を入居者と一緒に過ごす中で、教えられたり、助けられたり、気づかされたりし、共に暮らす者同士の関係を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所されたときは、日々の出来事や気づきを話し、共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる馴染みの方々にとっても居心地の良い場所であるよう努め、また、昔から利用している美容院に行き続けられるよう支援している。	利用者の馴染みの関係については、日々の会話を通じて把握に努めている。2～3カ月ごとに馴染みの理美容院へ職員が連れて行ったり、訪問の美容師とも顔なじみになっている。知人の訪問を歓迎し、雰囲気づくりを心掛け、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないよう関わり合いをし、職員も調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が聞ける方には聞き、意思疎通が困難な方にはご家族や関係者の方々から得るようにしている。	利用者と親密に話せるよう、入浴や就寝の準備など1対1になる機会に、思い等を聞いている。会話が十分にできない利用者には、家族の面会時に一緒に話をして把握に努めている。毎日の生活記録は、利用者の感情もわかるように記述されているが、新たに把握できた事項の記録が十分でない。	入居時の生活歴等の記録に、入居後に把握できた趣味やしてみたい事など、その人らしさの把握に役立つ事項を追記していくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に以前の暮らし方を聞いて把握し、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握理解するとともに、その日の過ごし方を本人に確認するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの希望をもとに、本人がより良く暮らせるための課題やケアについてカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングやアセスメントは、介護計画の見直し期間の3か月ごとに行っているが、利用者の状況に合わせ1か月で行うこともある。見直しはモニタリング結果や職員及び家族等関係者の意見を参考に、職員全員で職員会で検討して、利用者のニーズに沿った内容を心掛けて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一ヶ月に一度、カンファレンスを行い、職員で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。事業所の行事やご本人の誕生日会などにはご家族に声を掛け、参加していただき食事の提供も出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や、生け花、書道等本人の希望や体調に応じて利用してもらい支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を聞き、今までのかかりつけ医や、新たな病院の受診をしている。可能な限り、ご家族同行の受診をしていただき、不可能な時には職員が代行するようにしている。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望する医療機関とし、協力医を含め受診には職員と家族または職員だけで同行し、受診結果を家族に報告している。医療機関には同行した職員が生活状況を説明し、各医療機関と連携している。個人ファイルにより、職員間で受診結果を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、看護師の訪問があり、気が付いた事などを伝え相談している。また、病院が隣接しており、急な場合には受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関、ご家族と情報交換しながら、職員もお見舞いに行く等支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、対応し得るケアについて説明を行っている。状態の変化のある時はその都度家族に知らせている。	看取りの指針を作成しており、家族から希望があれば指針に沿って、事業所で看取りができる体制にしており、職員にも周知している。協力医である母体医療機関が隣接しており、緊急対応が可能である。しかし、家族とは看取りに関する事前の話し合いがまだ行われていない。	高齢の利用者もおり、家族とは折に触れて、看取りについての希望を話し合い、意向に沿って対応ができるよう、職員研修も含め体制を整えていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署からの応急手当の講習を受けており、実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設や地域の方とともに、年2～4回程度、避難訓練を行い、消火器の使用方法等の訓練を行っている。	隣接の老人ホームと合同で年4回防火・防災訓練を実施し、うち1回は消防署が立ち会っている。夜間想定訓練も行い、玄関前への避難ができるよう利用者と一緒に取り組んでいる。事業所のある敷地は地域の避難場所でもあり、訓練には多い時で20人ほど住民が参加している。災害時の水、食糧は3日分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬い、職員から依頼する言葉がけを心がけ、自己決定しやすい言葉を選ぶようにしている。	職員心得として、利用者の尊厳を守ることや、利用者に依頼するような言葉遣いを掲げており、実践に努めている。ケアの現場で利用者が恥ずかしい思いをしないよう、プライバシーに配慮し、職員に不適切な言動があれば管理者、副管理者が注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のおやつに好きな飲み物を聞き、提供したり、その日の服装など本人の希望を聞き支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でテレビを観たい方、お手伝いをしたい方、その方の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えの準備の際、本人の希望の衣類を尋ね、準備を行うようにしている。又、散髪を定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえ等、出来る範囲で手伝っていただいている。	毎日、利用者に希望を聞いて献立を作り、スーパーで季節感のある食材を購入して食事を提供している。利用者は食前に口腔体操をし、テーブル拭きや食器の敷マット配り等を手伝い、職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。年1回隣接老人ホームの管理栄養士による栄養チェックも受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べやすいよう刻んだり、完食できるよう量を調整しながら盛り付け、水分も摂取量が少ない場合は本人の好みの飲み物を提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、介助を行い、毎週日曜日を浸け置き洗浄の日として義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を気にかけて、身体機能に応じて歩行介助等をし、トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パッド類も本人に合わせ検討している。	利用者個々の排泄状況を把握し、利用者の排尿時間や素振りを見ながら、他の利用者にはわからないよう配慮してトイレに誘導している。昼間は利用者全員がトイレを使用し、夜間はポータブルトイレも使用しながら見守り、排泄の自立を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、状態に合わせて牛乳や十分な水分補給をしていただくとともに、週2回の看護師訪問の際に、下剤等に関する助言を受けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や状態に合わせて入浴していただいている。入浴を拒む方に対しては職員を入れ替えて声掛けするようにしている。	入浴は利用者の希望に合わせており、毎日の入浴もできるようにしている。平均して週3日は入浴しており、利用者は浴槽に浸かって満足している。入浴を嫌がる利用者もいるが、言葉かけを工夫して入浴を勧め、週3日は入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく生活リズムを整え、ゆっくり休息や安眠できるよう、温かい飲み物を出したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を全職員が把握できるように分かりやすくし、処方の変更があった場合は掲示し、状態の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらえよう、お願い出来そうな仕事を頼んだりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって初詣、花見、ドライブ、みかん狩り等、車や車いすを使って気分転換できるように支援している。	普段は、広い敷地内を車いすも利用しながら散歩している。月2回は自宅近くまでドライブしたり、近くの量販店にある喫茶店へ出かけている。そのほか、季節の花見やミカン狩りなどに遠出して気分転換を図っている。外出できない時は、事業所内の廊下を歩行して、下肢筋力の維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望者が少ないが、一緒に付き添って買い物をし楽しまれている。支払時にはご自身で支払うようにし、買うことに満足されている状態である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族と話したいとき、電話の支援を行っている。電話するときは自室にて落ち着いて電話出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、ホールでは花を飾ったり、壁には季節に合った飾り付けをしている。利用者にとって居心地のいい空間作りをしている。	高台にあるため、窓外の街並みが一望でき、採光もよく明るい空間になっている。玄関には金魚の水槽があり、利用者の癒しになっている。季節の花や花の貼り絵で季節感を表し、テーブルで毎日の洗濯物をたたむことで生活を感じられるようにしている。また、大きな手作りカレンダーで日付がわかるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ホールではテーブルとは別に長椅子、椅子を設置し、くつろげるスペースをつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談してベッドの位置を考え、テレビを置きたい方は置き、写真や、本人の作品、家族からの贈り物を飾り、心地よく過ごせるように心掛けている。	各居室とも和風の造りになっており、居宅の雰囲気を持たせている。自宅から持ち込んだ筆筒やいす等の家具や、テレビを置いて落ち着けるようにし、全居室に事業所からの誕生日プレゼントの時計が掛けられている。色紙やぬいぐるみ等、各利用者の心が和む物も置かれ、安心して生活できる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じた生活環境を提供出来るよう努めている。利用者一人ひとりが安全な環境で過ごせるよう職員が心掛けている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない